園だより３月

わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。
コリントの信徒への手紙Ⅲ　３章６節

月の後半、突然寒さがぶり返し真冬の様な日もあった２月。感染症も少し流行り、子どもたちの健康を心配しながらも、元気な子どもたちには残り少ない今年度の日々を存分に過ごして欲しいと願い、欠席状況とにらめっこしながら過ごしておりました。お陰様で収束に向かい、元気に最後の３月を迎えることができそうです。

今年度も１年間を通し、子どもたちは絵本・物語を楽しんで過ごして参りました。保育者たちが穏やかに語りかけるその言葉に耳を傾け、絵本・物語、ときには素話の世界に入り込み、それぞれにイメージを膨らませながらファンタジーの世界に身をゆだねるとき、どれほどの至福のときかと思います。年少組の子どもたちにとって、繰り返し同じ絵本が読まれることに、最初は幼稚園生活の中で特別なときであったかと思います。けれども毎日毎日楽し気に広がる絵本の世界に魅了され、気が付くとその子その子のペースで、目も耳もそして心もその世界に浸っていきました。子どもたちとずっと大切に過ごしている読み聞かせのとき。今年度もそのときによって育まれた豊かな心の成長に心から喜びを感じています。

園だより１月号で月刊絵本「おせち」について触れました。本当に素敵な絵本でその魅力に私たち保育者は捕らわれていたのですが、なんとその絵本は新聞社のニュースやテレビの報道番組でも大きく取り上げられ、増版を重ねられたようです。毎月子どものとも社からお配りする月刊絵本と共に「月刊絵本と保育」という冊子が届きます。今月号には「月刊絵本で、幅広い絵本の魅力を子どもたちに」と題し、絵本「おせち」の想いが記されておりました。その結びに「最近は、手っ取り早く子どもたちを笑わせようとする受け狙いの絵本が世の中に氾濫しています。しかし、固定概念にしばられていない子どもの感性はもっとしなやかで奥深いもの。そういう子ども時代にこそ、「おせち」のように静かに心に染み入る味わい深い絵本も体験してほしいと願っています」と記されておりました。保護者の方々にお伝えせずにはいられない文章でした。この思いを十分心に落とし、子どもたちと共にこれからも絵本・物語を楽しんでまいります。

２週間余りの３月、変わらない日々を大切に。宜しくお願い申し上げます。

園長　駿河　幸子